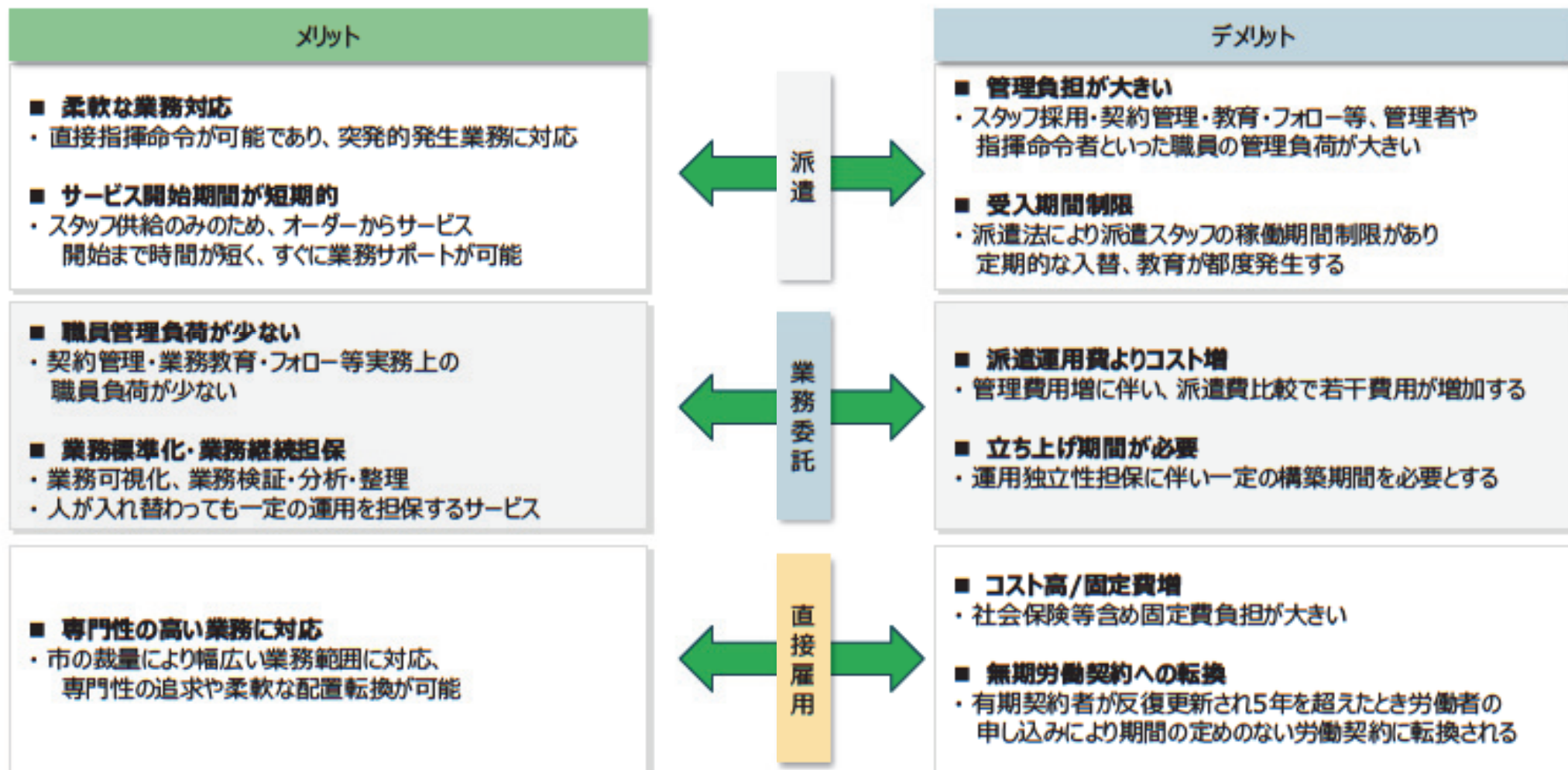


弊社への委託（民間事業化）問い合わせ状況

- （参考）民間事業化を含めた各形態の相違点について●

以下は事業形態で整理した例です。



期間・規模・範囲・目的などでどの形態を選択するか検討が必要です！

委託事業実施に当たっての留意事項

●委託導入検討と実施・・・目的の明確化●

委託を検討・実施する際には、その目的（目標）や時期などを明確にしておく必要があります。逆に明確となっていないために、経過・結果として進捗遅延や、当初の期待値とのかい離が見られるケースがあります。以下は一例です。

事業化目的	外的	●サービス向上 ●方針追随 ●近隣連携 ●新たなサービス提供
	内的	●定数管理 ●費用削減 ●労働時間削減 ●既成概念からの脱却
事業化時期	外的	●適正な準備と安定運用 ●サービス改善実施 ●移転計画
	内的	●人事異動 ●レイアウト変更 ●労働環境改善 ●新技術導入



目的（ゴール）は見えていますか？

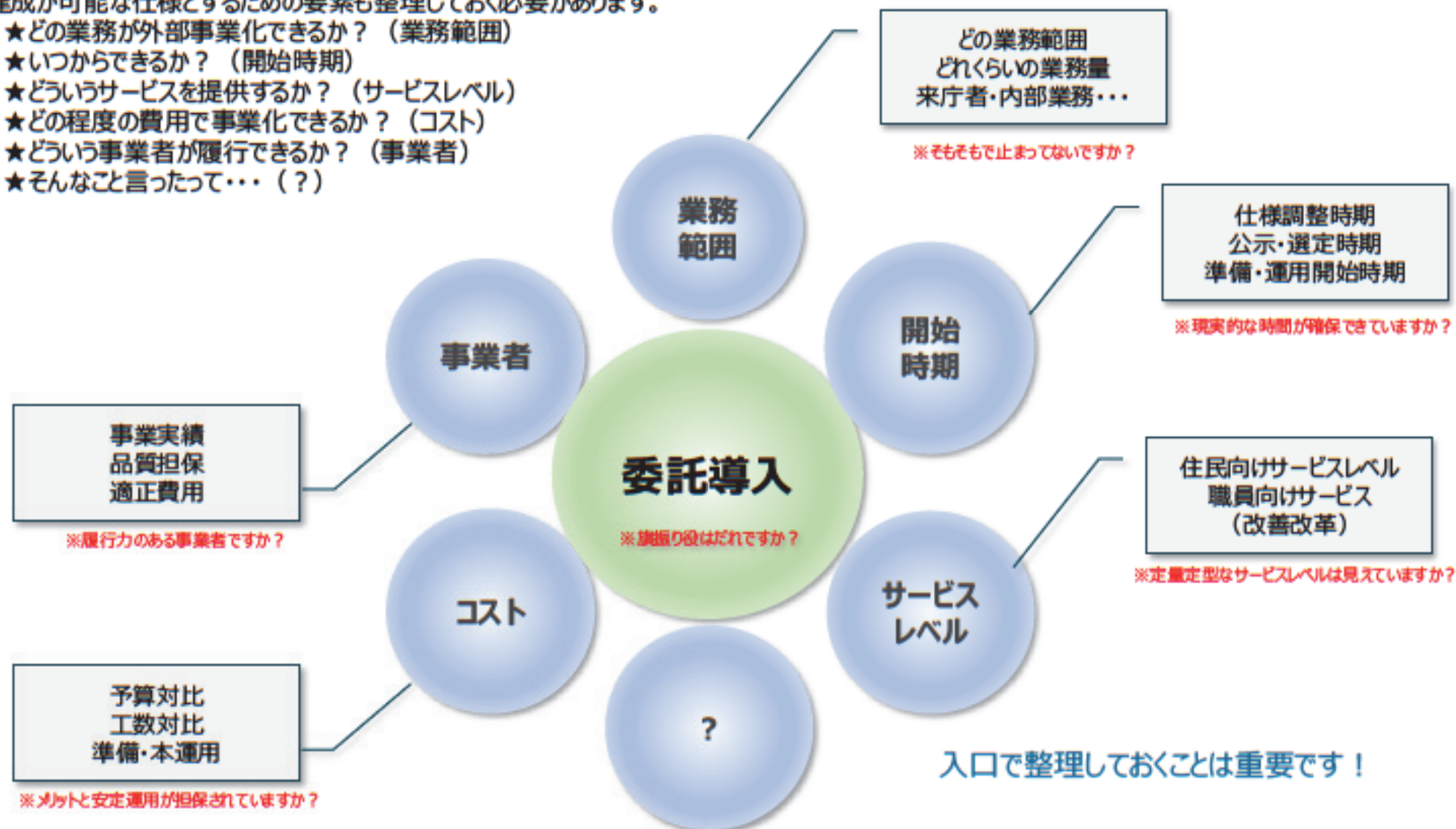


委託事業実施に当たっての留意事項

●目的（目標・時期）設定後に●

委託導入に先立ち、仕様の検討（調整）が必要となります。
目的達成が可能な仕様とするための要素も整理しておく必要があります。

- ★どの業務が外部事業化できるか？（業務範囲）
- ★いつからできるか？（開始時期）
- ★どういったサービスを提供するか？（サービスレベル）
- ★どの程度の費用で事業化できるか？（コスト）
- ★どういった事業者が履行できるか？（事業者）
- ★そんなこと言ったって・・・（？）

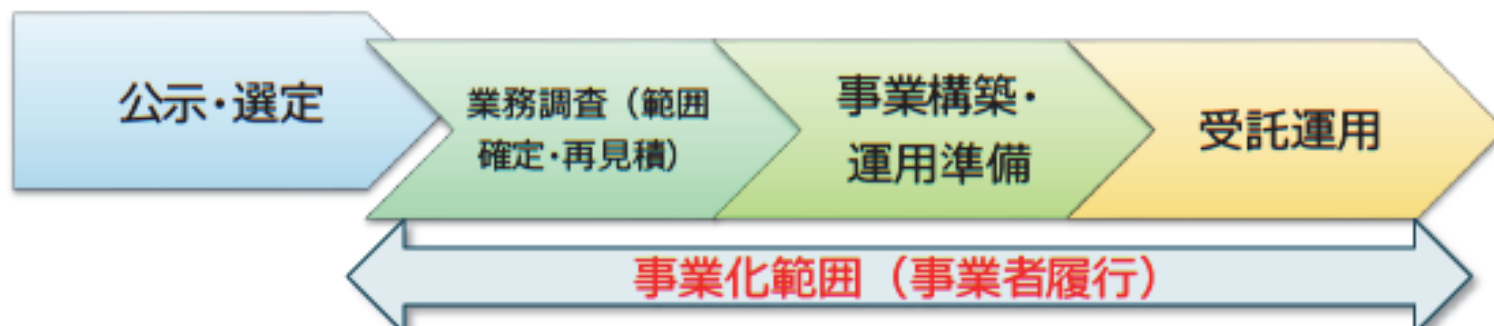


委託事業実施に当たっての留意事項

●委託導入までのプロセス上にて●

導入までのプロセスとして概要を2つのケースで示しました。委託する業務によってどのようなプロセスで実施するかも整理しておく必要があります。

（業務調査から委託）
モデル①



- ◇メリット：受託運用前に業務範囲の精査（切り分け）・ツール作成が完了/業務量に見合った体制準備が可能
事業履行実績・準備段階の職員負荷軽減・経験値豊富な事業者参入の期待高
- ◇デメリット：当初範囲と異なる場合の費用変動の可能性あり/運用まで長期間必要/事業費総額増加
参入事業者数が限定的（一部業務）

（運用準備から委託）
モデル②



- ◇メリット：比較的短期間で受託運用開始可能/事業者参入数増の期待高/準備費用の低減可能
- ◇デメリット：仕様調整の負荷増/事業者決定後の引き継ぎ負荷増/短期間構築時の各種ルーツ準備遅延懸念
想定外事業者参入の可能性あり